

# 本多 辰也 選手の奮闘

全豪選手権大会 8年連続出場の本多選手は、今回どのような結果を残したのだろうか。

## 全豪選手権での結果

本多は今回、スケジュールの都合でビーチフラッグス（ビーチにうつ伏せになり、合図とともに起き上がり、20メートル離れたところに置かれたビーチフラッグ<ホースチューブ>を取り合う競技）のみの出場となった。

予選の2本のレースは、元世界チャンピオンの選手が隣のレーンに入る緊張感の中で、スタートの合図からの素早い立ち上がりと加速力、そして的確なレースの読みで危なげなく通過。しかし、直後に行われた準々決勝ではコース取りの迷いから出遅れ、惜しくもビーチフラッグを手にはすることができず、敗退となった。結果はベスト32で、同大会の自己ベストである、2年前に記録した同種目3位は、残念ながら更新することはできなかった。



左写真：ホースチューブを取りに向かう本多選手（中央） / 上写真：地元オーストラリア選手と競う本多選手

## 奮闘のボイス 本多 辰也 選手

**Q：**2泊3日の強行軍での8年連続8回目の全豪選手権出場になりましたが、そこまでこの大会にこだわるのはなぜでしょうか？

**A：**今回休暇が取れなかったもので、来ないという選択肢もありました。でも、世界で一番レベルが高いこの大会に出場し

惜しくも目標とした結果を残せなかった本多選手。大会を終えて、全豪選手権へのこだわりや今回の感想を語ってくれた。

て勉強できるということは、とても価値があることです。また、8年前にオーストラリアで実際に活動させてもらった時にいるお世話になった人やたくさんの友人に対しての恩返しになるとも思っています。ここで頑張っている選手に会って、また自分の1年間のモチベーションにつながるの、私の1年間のスタートであり、終わりであるのがここだと思っているからです。

**Q：**今回、これまでとは違ったものを感じたりしましたか？

**A：**感じるものは毎年むしろ一緒なんです。それは、ここでみんなが一生懸命頑張っている姿を見るっていうのは、自分もまだまだ頑張らなくちゃいけないっていう気持ちになることです。

**Q：**残念ながら準々決勝で敗退となりましたが、今回の収穫は？



**A：**やはりこのレベルの高さというのは改めて感じましたし、今回のような自分が設定した悪条件の中でも、どうやってレースをこなしていかなくちゃいけないのかっていうことは、すごく反省材料になりました。また、若くて良い選手が多く出てきているので、彼らのアップの仕方やレースの中での取り組みの姿勢から学んだことは、また自分のこれからのキャリアに繋がると思っています。

次ページへつづく▶